

社会技術研究開発事業
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査 事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

丸山 康司 (名古屋大学 大学院環境学研究科 教授)

2. 課題名

環境正義を踏まえた再生可能エネルギー利用のガバナンスの検討

3. 実施期間

2023(令和5)年10月1日 ~ 2024(令和6)年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況 (公開)

本企画調査は、社会的公正に資するエネルギー転換を実現するガバナンスの手法を確立するための準備として、再生可能エネルギー事業に伴う社会的紛争や摩擦が生じる社会構造と解決のための選択肢を明らかにすることを目標として実施されたものである。

採択に際しては、多様な価値観を持つ主体が複数存在する社会における合意形成の方法論について検討すること、ガバナンス (配分・手続き) の範囲や合意形成の対象・時期などを定義・明確化していくための議論を重ねること、対象とする技術をより具体化し、様々な専門性を有する専門家を巻き込んだ体制を構築すること、また海外の研究者や団体などとの協力関係を構築することを期待した。

企画調査の結果、再エネ導入に関連する利害対立の構造、環境影響に関するファクトチェック、立地地域の経済効果など、再エネのガバナンスについて多面的な検討が行われた。特に再生可能エネルギーの事業についてはかなりのケースを調査しており、利害得失を住民の目からみたものを含めて可視化、明確化したことは評価に値する。

もともと、ガバナンス、トレードオフ、シナジーそれぞれの実施項目に基づき、論点収集・論文調査など予備的調査が進められた一方で、システムティックコンセンシングや順応的管理手法といった各項目で検討した事項については、課題領域をどの程度カバーした検討になっているのか、どのような課題が残るのか、という点が必ずしも明確ではない。また、トレードオフにかかわるパラメータ間の関係や、今後の議論における位置づけについてもわかりにくい。

研究開発プロジェクトの提案に際しては、本企画調査で得た検討を生かしつつ、今後の時系列的な地球環境問題の展開も踏まえたうえで、再生エネルギーの社会実装課題やそのガバナンスにかかわる ELSI を明晰に議論できる研究構想へと練り上げていただくことを期待する。

以上

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループ チームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB ディレクター

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 総合学術高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士
／九州大学 グローバルイノベーションセンター 客員教授

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(2024年3月末時点)